

〈実践報告〉

中等教育実習に立ち向かう実践的指導力の確立 —教育実習検定、学習指導案・模擬授業、教育実習日誌—

吉森丹衣子・土井 進

要約

第3期生となる令和元年(2019)度の中等教育実習生は13名であった。これまでの本学部の教育実習生には次のような3つの課題があった。1点目は専門教養と教職教養の知識が不足していること、2点目は学習指導案を書く力の不足と授業実践力の不足、3点目は教育実習日誌を書く力の不足である。このような実践力の不足を要因として、教育実習の辞退や継続困難と判断された学生がいた。これらの結果を踏まえ、教育実習開始前に教育実習に耐えうるだけの実践力の確認と養成を目的として、4月～5月の期間に教職担当教員2名で次の3点の課題に取り組んだ。

第1点は、専門教養と教職教養の基礎知識の定着を目的として、専門教養科目と教職教養科目からなる教育実習検定を10回実施した。第2点は、教育実習での授業範囲を想定して学習指導案作成と50分の模擬授業の実施と教員による指導を実行した。そして、第3点は、合格の許可が出るまで、教育実習日誌を毎週1頁ずつ、実践を想定して手書きで、適切な内容を記載することを課した。この3つの課題を達成し、教育実習生としての基本姿勢・心構え⁽¹⁾および教育実習に耐えうる実践力の備わった学生に対しては、廊下の掲示板に名前を貼りだして努力を称えた。以上のような指導を積み重ねた結果、本年度は全ての学生が教育実習を辞退・中断することなく終えることができた。

キーワード

教育実習検定 学習指導案・模擬授業 教育実習日誌 基本姿勢

1. 問題の所在

1) 我が国における教員養成課程の課題

我が国では公教育を、幅広い視野と高度専門的知識・技能を兼ね備えた高度専門職である教員が担当することを目的としている。そのため、養成の基幹部分を成す教職課程が大学に設置されている。この教職課程は、教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成31年4月より新たに改訂がなされた。改訂による具体的な変更点は以下の6点である。

よしもり たえこ：淑徳大学 人文学部 助教

どい すずむ：淑徳大学 人文学部 教授

(1)「教科に関する科目」、「教職に関する科目」、「教科又は教職に関する科目」の区分を廃止し、「教科および教職に関する科目」とする、(2)「特別支援を必要とする生徒の理解」、「総合的な学習の時間の指導法」を新たに独立科目として加える、(3)科目内の追加事項として「チーム学校」、「学校と地域との連携」、「学校安全への対応」、「カリキュラム・マネジメント」、「キャリア教育」等を追加、(4)各教科・特別活動の指導方法の科目では「アクティブラーニングの視点」を取り入れる、(5)大学の判断によって「学校インターンシップ」を追加することができる、(6)「教職に関する科目」については「教職課程コアカリキュラム」に基づいて再課程認定の審査を行う。

これら6項目のうち(1)は教科の専門的内容と指導方法を一体として学ぶことを目的とした変更である。(2)から(5)は現代の教育現場における課題に対応するための履修内容の充実を目的としている。そして、(6)は、教職課程において各大学が共有して習得すべき資質能力の明確化を目的としており、ひいては教員の質保証に寄与するものである。

この度の改正は「実践性」に重きを置いた変更と捉えることができる。これまで教員養成課程においては3点の課題が指摘されている。1点目は、教職課程の必要単位数が法律に規定されており、新たな教育課題が生じても速やかな単位数の変更が困難である。2点目は学校現場の状況変化や教育をめぐる環境の変化に対応した教職課程になっていない。3点目は、大学教員の研究的関心に偏った授業展開がなされる傾向があり、教員として必要な学習が行われていない、というものである⁽²⁾。

教員養成においては、学問と実践性の2つの側面が常に求められている。しかし、上の3点の課題からわかるように、これまでの教員養成においては学問の側面が強調されており、実践性が不足している。1997年に実施された教育職員養成審議会(第1次答申)⁽³⁾では、「教科指導、生徒指導に関する「最小限必要な資質能力」(採用当初から学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力)」を学生に身につけさせることが、教員養成にあたる大学に求められる役割としてあげられている。

また同様のことは、中央教育審議会答申(2012)⁽⁴⁾においても述べられており、初任段階の教員が学校現場における諸課題の高度化・複雑化により困難を抱えており、養成段階における実践的指導力の育成強化が必要と指摘されている。このことから、我が国の教員養成においては、高度の専門的知識・技能に加え、現代の教育現場において必要とされる実践的な資質能力を免許取得段階で身につけていることが求められていると考えられる。

2) 本学における教職課程の課題

人文学部教職課程は平成31年度に6年目を迎えた。教職課程の履修は第一学年から始まり、前期に「教職概論」、後期に「教育原理」が開講されている。第一学年においては歴史学科の約半数の学生が教職課程の履修を希望するが、学年が上がるごとに履修人数は減少する傾向にある。その理由としては、志望動機の強度や進路変更、履修における負担などが要因として考えられる。その結果、平成29年度に中学校・高等学校教諭一種免許状取得学生は14名、翌年度は16名となっている。

志望動機の強度等により履修学生が減少することは、学生のキャリア形成等の観点からすれば当然のことと言える。しかし、各年度において教育実習開始直前または実習期間中に、実習を断念し、進路変更を余儀なくされている学生がいた。教育実習までの3年間、免許取得および教員になるための努力を積み重ねてきた学生が、このような結果となる背景には、学生個人の要因だけではなく我が国の教員養成課程の問題と同様に、教育実習に耐えうるだけの実践力が備わっていなかった可能性が考えられる。

学生は教育実習の場で、初めて生徒に関わる。その中で、生徒への対応や、授業の難しさを体感しな

がら、指導教員の指導を受けることによって、自ら教職に向かう自覚を深めていく。この際、自らの不足を受け入れていく心理的負担に耐える力が求められるが、同時に教職を志望する者としての一定の知識とスキルが求められる。これらの不足が大きければ、その分、心理的負担も増加する。そのため、本学の教職課程における指導を省み、教育実習生の実践的指導力に関する課題を抽出し、その対応を行う必要があると考えた。

2. 本学における教職課程の課題の検討方法

教育実習を迎える4年生を対象とした指導における課題点を検討すべく、平成30年度に教育実習を終えた学生を対象にアンケートおよびインタビュー調査を行った。

1) インタビュー調査による課題の検討

2018年7月23日～30日の間に、教育実習を終えた4年生、男女10名（男性：6名、女性：4名）に対し、インタビュー調査を行った。インタビューは、教育実習生が不安を抱えやすい⁽⁵⁾⁽⁶⁾「授業実践（教材研究等を含む）」に関する内容にテーマを絞り、調査を行った。調査協力者の授業時間数の平均は15.2時間である。詳細な内訳を表1に示す。

インタビュー調査は半構造化面接によって行われた。一人当たりのインタビュー時間は30分～60分であった。なおインタビュー中は、調査協力者の了承を得てICレコーダーで録音した。収集されたインタビューデータの分析は、逐語記録として文章化を行なった。文章化されたデータは、KJ法（川喜田, 1996）⁽⁷⁾をもとに（1）カード作り、（2）カード集め、（3）表札作りの手順で処理した。なお、今回の分析目的は課題抽出であるため、類似したグループの合成は最小限にとどめた。また、本来の分析過程である「空間配置」までは行わないものとした。

分析の結果は表2、3の通りである。表2は、学生が授業実践において大変だったと感じたこと（自己知覚）をまとめた内容である。それに対し表3は、実際に指導担当の教員から受けた指導内容を示している。

表2では「生徒との相互作用」、「事前準備」、「授業実践」、「想定との差」の大きく4つのカテゴリーが得られた。「生徒との相互作用」には、授業時の生徒の状態（知識量・特徴・状況など）を把握し、それに対応した働きかけ（説明、雑談、集中力への配慮など）の困難が分類された。カテゴリー「事前準備」には授業を行う前段階での課題が分類された。カテゴリー内で最も多く語られたのは知識不足であり、知っている知識が説明できるほどまでに体系化されていないことが語られた。

「授業実践」においては、授業そのものの準備、実施において学生が苦慮した内容が分類された。本カテゴリーに分類された

表1 インタビュー協力者詳細

No	校種	担当科目	授業実施回数
1	高校	日本史	12
2	高校	日本史	9
3	高校	日本史	6
4	高校	世界史	8
5	高校	日本史	4
6	高校	地理	28
7	高校	日本史	20
8	高校	日本史	27
9	中学	歴史的分野	20
10	中学	歴史的分野	18

表2. 授業実践において大変だったこと、困ったことの分析結果

カテゴリー	主なカード内容
生徒との相互作用	生徒の特徴把握
	生徒の状況把握
	生徒の知識量
	歴史への興味関心
	生徒の意欲差
	生徒の集中の持続
	浅薄な反応
	クラス間の反応の差
	生徒に合わせた授業
	わかりやすい説明
事前準備	雑談力
	教材研究
	自己学習の不足
授業実践	知識の不足
	指導案の作成
	指導教員の授業形式の継承
	目的に合わせた授業構成
	時間配分
想定との差	授業運営
	ICT機器の活用
	予想外の質問
	模擬授業との差

表3. 指導教員からうけた授業に対する指導内容に関する分析

カテゴリー	主なカード
授業準備	教材研究
	知識の不足
	授業内容の薄さ
	資料の使い方
板書スキル	説明
	板書内容
	板書スピード
	板書の書き方
	板書量のバランス
授業の構成	授業目標と内容のつながり
	グループワークの実践
	授業のテーマ設定
	授業の到達目標の設定
生徒への働きかけ	時間配分
	生徒理解
	生徒との関係性
	机間指導
	発問の設定
	指示の仕方
	話し方
	興味を引く工夫
	リズム
	授業の実施方法

もののうち、「目的に合わせた授業構成」は、受験対策や知識そのものの定着など、授業目的と授業内容を一致させることの困難さを指している。また「指導教員の授業形式の継承」は、教育実習中の指導教員の授業を参観し、その実施方法を自分の授業実践に取り入れようとした際に生じた困難である。「想定との差」には、学生自身が体験してきた模擬授業と、実際に子どもを対象とした授業との差に関する語りが分類されている。

表3. においても、大きく4つのカテゴリーが設定された。語りが多かったのは「授業準備」と「生徒への働きかけ」である。授業準備には、根本的な問題である「知識の不足」に加え、事前の教材研究、話す内容、資料活用など、授業の準備段階に関する課題が分類されている。これに対し「生徒への働きかけ」は、授業中の生徒との関わり、指導上の課題点が分類された。

「授業の構成」では、「授業の到達目標の設定」や「授業のテーマ設定」など、何のために授業をやるのか、何を到達地点とするのかという指摘に関する語りが分類されている。実習生においては授業のベースとなる「目標設定」が不足しており、設定と実際の内容のつながりに関する指導を受ける傾向が見られた。また、授業内で実施するグループワークの実施方法や、生徒の活動をいかに授業内容へ反映するか、授業内での時間配分など授業の構成に関する内容も含まれている。

2) 教職志望学生による総合的な人間力(資質能力)の自己評価

インタビューでは調査時間の都合から、教育実習を終えた全ての学生から話を聞くことができなかった。また、調査内容を授業実践に絞って調査を行った。そこで、教育実習を終えた学生の総合的な評価を確認するために、2018(平成30)年9月10日の「教職実践演習」の第1回目の授業において、教

職志望学生に対し総合的な人間力(資質能力)を自己評価するための30項目の指標⁽⁸⁾を提示し、自己評価を行わせた。

調査対象学生は教育実習を終えた16名であった。30項目の指標のうち、不十分と考えられる5項目と、良くできていると考えられる5項目を選択する方法でアンケートを実施した。⁽⁹⁾ 学生が、どの指標が不十分と捉え、どの指標が良くできていると捉えているかを把握することにより、不足している知識や技能の向上を図るとともに、出来ている点は更に伸ばして自信につなげることができる。また、多数の学生が不十分と判断した指標は、今後の指導において重視すべき点、つまり指導上の課題点と捉えることができる。

調査の結果、学生が不十分と評価した指標の上位5項目は、「学級経営案を作成することができますか(10人)」、「学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を修得していますか(7人)」、「教科書や中学校学習指導要領(社会編)の内容を理解していますか(7人)」、「道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか(5人)」、「情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか(5人)」であった。

3) 課題設定

インタビューとアンケートによる調査から、本学の教職課程において大きく2点の課題を指摘することができる。1点目は授業実践力の向上、2点目は教職に対する理解の不足である。1点目は、インタビューにおいて語られた授業に関する様々な知識・スキルの不足に関する語りからの指摘である。2点目は、アンケート調査で示された学生が不足を感じる5項目からの指摘である。特に学校教育、学級経営、学習指導要領の理解の不足は、教職という職務そのものの理解が不足していると指摘でき、教育現場における適切な判断、行動にも影響を与えるものである。

これに加え、実習上の問題として日誌の作成が課題にあがった。教育実習に行った学生のうち一部に、実習終了後の日誌の提出が遅れる学生がいた。遅れた理由として、実習日誌に書くべき内容の選定ができない、日誌記入に時間がかかり過ぎてしまう等が学生からあげられた。

教育実習日誌は次の2点の意味で重要なツールである。1点目は、自己理解である。1日を振り返り、自己の学びをまとめることによって、自己の不足を理解し、次の目標へとつなげることが可能になる。2点目は、指導教員からのアドバイスを得るためである。日誌は1日の最後には指導教員に提出する。そこで指導教員から、実習中に目を向けるべき点、気をつけるべき点などを指導していただき、翌日の実習をより良いものへと変えていくことが可能になる。

以上の2点から、日誌は実習をより有意義なものにするための重要なツールと言える。そのため、日誌を書く力は教育実習生が実習前に身につける力であると考えられる。そこで上記2点の課題に加え、3点目の課題として実習日誌を書くスキルの向上を課題としてあげた。

5

3. 課題改善のための取り組み

我が国の教員養成課程と本学の教員養成課程における課題、特に教育実習における課題として「実践的指導力」があげられる。そこで本学における「実践的指導力」の育成を目的として、先述の3点の課題を克服するための取り組みを、教育実習前の事前指導において実施した。対象を教育実習前の4年生とした理由は、教育実習に向け意欲が向上していると同時に、不安が高まっているためである。学生が教育実習検定、学習指導案・模擬授業、教育実習日誌の3つの課題に取り組み、達成することで自信を

表4. 第3期生(令和元年度)

	教育実習校	担当教科(科目)	研究授業・本時の主題
1	東京都公立中学校	社会(歴史的分野)	第一次世界大戦
2	千葉県私立高等学校	地理歴史(日本史B)	律令国家の形成
3	埼玉県公立中学校	社会(歴史的分野)	昭和恐慌と中国侵略
4	埼玉県公立高等学校	地理歴史(日本史A)	立憲政体の成立と国際的地位の向上・日清戦争
5	東京都私立高等学校	地理歴史(日本史B)	明治政府の政策
6	東京都公立高等学校	地理歴史(日本史A)	杉並メダカからみる農芸高校周辺の都市化
7	千葉県公立中学校	社会(日本史)	帝国主義と日本
8	茨城県公立高等学校	地理歴史(日本史)	幕藩体制の成立
9	東京都公立高等学校	地理歴史(地理A)	氷河地形・カルスト地形
10	北海道立高等学校	地理歴史(日本史)	大宝律令
11	福島県公立高等学校	地理歴史(世界史)	宋の成立と東アジア諸地域
12	東京都私立高等学校	地理歴史(世界史B)	イスラーム世界の形成と発展
13	山梨県立高等学校	地理歴史(日本史A)	安保条約の改定・保守政権の安定

得て実習に参加できると考えた。

令和元年度、教育実習を行った学生は13名であった。各学生の実習校、担当教科等を表4に示す。これら13名のうち、中学校・高等学校教諭一種免許状取得予定学生が13名、教員採用試験受験者が7名、東京都中学校特別支援学校(社会)補欠合格者1名、教職関係就職確定者4名となっている(2020年2月4日現在)。

1) 教職科目の基礎知識の定着を図るための教育実習検定

学生の資質能力の伸長を図るうえで、「教職課程コアカリキュラム」として示された「全体目標」、「一般目標」、「到達目標」は極めて有益な指針であると受け止めている。例えば、(2)教員の役割の「一般目標」は、「教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。」であり、(4)教員の職務内容の「一般目標」は、「教員の職務内容の全体像や教育公務員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。」と示されている。この目標を参照し、かつ先述の本学の教職課程における課題を踏まえ、教職教養の基礎知識の定着を図る問題を教育実習検定と称し、10回実施した。

実施に際しては、各学生によって実習開始期間が異なるため、本人の申請に応じて個別に検定を実施した。検定を受験した結果、正答率が8割を超えた場合を合格とし、次の検定の実験を許可した。正答率が8割に満たなかった場合は、再受検を課すことで基礎知識の定着を図った。

6 検定問題の内容は、教職に関わる各分野(教育原理、教育法規、教育心理、教育史)から作成した。加えて、教育実習に関する問題を取り入れた。また、これらの問題の作成においては、『教育実習前CBT(Computer Based Testing)問題集』(北海道教育大学, 2019)⁽¹⁰⁾を参考にして教育実習検定問題を作成した。検定ごとに記載する問題の分野はランダムに設定した。教育実習検定の抜粋を資料として末尾に掲載する。

2) 学習指導案づくりと模擬授業の実践

教職課程を履修している学生にとっての最大の試練は、3週間の教育実習である。この難関を乗り越える力量形成の場が、田中洋平准教授の指導のもとに運営されている教職サークル師道塾⁽¹¹⁾である。この取り組みにおいては、学生は自主的・主体的に参加し、先輩と後輩がチームをつくって、相互に真

剣に学びあい、Universityという大学本来の学生と教員が切磋琢磨する学び舎として発展してきた。

しかし、サークルは自主参加のため全ての教職履修学生が参加しているわけではない。これまで、学生の授業力を確認する機会を設けず、学生を教育実習に送り出してきた。ここに大きな問題点があると反省し、授業実習に求められる基本的な資質能力が身につけていることを確認するために、教育実習に向かう全学生に学習指導案づくりと模擬授業に取り組みせ、教員が指導を行った。

学習指導案と模擬授業の内容は、教育実習で担当する単元に基づいて設定した。また模擬授業は、実際の授業を想定して50分の模擬授業実施を課題として与えた。指導にあたっては、先述のインタビュー調査で得られた観点をもとに指導を行った。具体的には、大きく以下の7点である。

- (1) 生徒にわかりやすい説明・指示・発問になっているか
- (2) 生徒の反応が想定できているか
(※学生が授業の発問等において生徒のどのような反応を想定して授業を行なっているか)
- (3) 授業内容の工夫(生徒の興味関心を引く内容になっているか)
- (4) 50分の授業内で生徒が理解すべきこと、到達点を検討できているか
- (5) 板書の量・スピード・内容が適切か
- (6) 想定した時間配分で授業を実践できているか
- (7) 作成した学習指導案の内容に過不足がないか

3) 教育実習日誌を書く練習

教育実習中に学生が記述する教育実習日誌は、日々の学びを書き留めるノートであると同時に、指導教員とのコミュニケーションツールにもなる。そのため、適切な文章表現で、日々の学びを書き込む力が必要になる。しかし、これまで教実習を経験した学生の中には、「日誌に何を書いて良いのかわからない」と悩む者や、自分の学んだことを文章で適切に表現することが十分にできていない学生が見られた。そこで学生に対し1週間に1度日誌の提出を課した。

日誌の用紙は、教育実習で使用する日誌欄をコピーして記述させた。学生には、1週間に一度、自身が設定した1日分のスケジュールと、その活動から得られた学びを記入させた。この課題を2人の教員が手分けして読み、その都度、筆順、誤字脱字、文字の大きさ、濃さ等をチェックし、文章表現や記述内容の質についてフィードバックを行った。

また、教育実習では多忙な指導教員に日誌を見てもらうために、短時間で日誌を書く必要性が生じる。そのため、日誌課題の作成に時間がかかる学生には、作成時間を設定して日誌を書くことを指示した。時間を意識してこの課題を繰り返すことによって、指導の必要性がなくなったと判断した段階で日誌の課題は合格とした。

7

4. 取り組みの効果

これまで本学の教職課程においては、教育実習直前の辞退者や、実習の中断を余儀なくされる学生がいた。しかし、本年度においては辞退者や、中断者はなく教育実習を終えることができた。また、教育実習を終えた学生に、事前に設定された課題の有効性について意見を求めたところ、以下の回答が得られた。

1) 教育実習検定に関する感想

- ・忘れていたことを再確認できた。
- ・歴史に関する基礎的な知識を問う問題があったから歴史の知識が再確認できた。

2) 模擬授業に関する感想

- ・教育実習まで模擬授業をする機会がなかったからブランクを埋められた。あと、50分通して授業をしたことがないから通しで初めてやれた。50分の時間の感覚がわかった。
- ・模擬授業をやったことで、発問で何を伝えるか、生徒がどうしたら理解できるかとかを考えることができた。

3) 日誌作成に関する感想

- ・時間を意識して日誌を書く練習をしたので、実習中も時間をかけずに日誌が書けた。
- ・漢字の間違いを指摘されたので、実習中は意識できた。

5. まとめと今後の課題

今年度は文部科学省によって、教員養成課程の再課程認定が行われた。これを機会に本学では、教員養成の質的向上を図るために、次の3つの取り組みを実践した。①専門教養と教職教養の基礎知識の定着を図るために教育実習検定を10回実施した。②学習指導案作成と50分の模擬授業に教員が参与し指導した。③合格の許可が出るまで、教育実習日誌を毎週1頁ずつ手書きで書く課題を出し、内容等の添削指導を行った。

これらの課題を達成し教育実習生としての基本姿勢・心構えができた学生の名前を掲示板に貼り、努力を称えた。結果、学生13名全員が教育実習開始までに全ての課題を終えることができ、教育実習に臨む基礎的な知識と基本姿勢・心構えを身に付けることができた。教育実習も恙なく終了し、学生1人1人が大きな成長を遂げた。

今後の課題は、余裕をもってこの取り組みを実践するために、3年生の後期、特に後半の段階から課題を実施していく必要がある。また日誌課題においては、初期に提出した日誌の多くが単なる日記になった。このような結果になった理由として、学生が日々の学びを振り返る機会が少ないことがあげられる。また、どのようなことを、どのように教員に報告すれば、教員が学習の内容を把握しやすいのか、などの他者視点の不足が指摘できる。

8 そのため、教育実習日誌の記述練習を継続するにあたっては、初回から自由に書かせるのではなく、記録をとる意味、書く際に注意すべき点などをまとめた資料の事前配布が必要と考えられる。また、記載した日誌の内容が適切であるかを自己点検できるチェックリストなどの作成が有効であろう。

また今回は、教育実習に耐えうる実践的指導力の向上を目的として課題の構築、実施を行ったが、非常に短期間での指導となっている点が課題といえる。今後は教育実習直前の短期的な指導に加え、長期的な指導についてカリキュラム・マネジメントの観点から検討、実践していく必要があると考える。

6. 資料：教育実習検定問題（各分野の問題を抜粋）

【教育原理】

1) () に適する語句を記入せよ。

- ・中学校学習指導要領は、() 第74条（教育課程の基準）において文部科学大臣が別に公示する、と定められている。
- ・高等学校学習指導要領は、() 第84条（教育課程の基準）において、文部科学大臣が別に公示する、と定められている。
- ・学習指導要領は、各学校が守らなければならない() 拘束力をもつ。

2) () の中から適切なものを選択せよ。

- ・教育課程の基準としての法的拘束力を有する「学習指導要領」は、誰が公示するとされているか。次の中から選べ。
(内閣総理大臣 各学校の校長 都道府県教育長 文部科学大臣)
- ・「学習指導要領」は、次のどの法令に規定されているか。
(教育基本法 学校教育法 学校教育法施行令 学校教育法施行規則)

【教育法規】

1) () に当てはまる語句を【 】から選び記入せよ。

- ・「学校教育法」における「学力」の定義 第30条
「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な() 及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な()、判断力、表現力をその他の能力をばぐくみ、() に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」
【 知識 思考力 主体的 】

2) 教育法規に関する次の条文の() に当てはまる語句を下の【 】から選び記入せよ。

- ・「日本国憲法」第26条
教育を受ける権利、教育を受けさせる義務、義務教育の無償) すべて国民は、法律の定めるところにより、その() に応じて、ひとしく教育を受ける() を有する。すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に() を受けさせる() を負ふ。義務教育は、これを() とする。
【 権利 能力 義務 普通教育 無償 】

9

【教育心理】

1) 次の文章の(ア)～(ウ)にあてはまる組み合わせとして適切なものを1つ選びなさい。

クライアント中心療法では、カウンセラーの3条件として(ア)、(イ)、(ウ)をあげている。

- | | | |
|---------------|---------|--------|
| A：ア－肯定的配慮 | イ－一貫的態度 | ウ－自己理解 |
| B：ア－無条件の肯定的配慮 | イ－共感的理解 | ウ－純粋性 |
| C：ア－条件的な肯定的配慮 | イ－論理的理解 | ウ－敬意 |
| D：ア－無条件の肯定的配慮 | イ－一貫的態度 | ウ－熱意 |

2) 次の文章中の(a)、(b)にあてはまる語句の組み合わせとして、最も適切なものを選びなさい。
「ピアジェは(a)を提唱し、4つの発達段階を示した。また、(b)は、人間は生涯発達するものとみなして、発達段階を8つに区分した。」

- | | | | |
|-------|----------|---|-------|
| (1) a | 道徳的発達段階説 | b | ピアジェ |
| (2) a | 性的発達段階説 | b | フロイト |
| (3) a | 認知的発達理論 | b | エリクソン |
| (4) a | 性的発達段階説 | b | ブルーナ |

【教育史】

1) 以下の文章を読んで、当てはまる人物を()に記入せよ。

- ・17世紀最大のチェコスロバキアの教育思想家(1582-1670)。主著『大教授学』、世界最初の絵入り教科書『世界図絵』の作者。()
- ・イギリスの哲学者(1642-1704)、主著『教育に関する一考察』、教育には体育、徳育、知育の3つの段階があり、それぞれにおいて良き習慣と良き品性の形成のために厳格な訓練が必要と説いた。()
- ・近代教育における「子どもの発見者」(1712-1778)、主著『エミール』「自然に帰れ！」人間の善性を回復するには、できる限り人為的な働きかけをやめるべきである。カント、ペスタロッチはじめ、世界中の教育思想、教育実践に多大な影響。()

【その他：教育実習関連事項】

- ・テキスト『踏み出そう！教職への第一歩 中等教育実習事前事後指導—中学校社会科・高等学校地理歴史科—』を参照して、次の1)～16)の各問いに答えよ。

1) 次の問いにそれぞれ50字程度で答えよ。

- ・教育実習日誌を書く意義はどこにあると思うか。
- ・実践と理論の往還作業とはどのようなことか。
- ・テキストに紹介されている実習生は、教育実習を経験することによって、教育観・学校観・生徒観にどのような変容を経験しているか。記述せよ。

2) 次の()に当てはまる語句を記入せよ。

- ・教育実習とは、かけがえのない成長を続けている()たちの中へ飛びこむこと。
やり直しのきかない()の実践者として学校教育に参画すること。
- ・初等教育は、小学校教育をいう。中等教育は、()教育と()教育をいう。
高等教育は、大学教育をいう。
中学校教育実習は、()週間(15日)4単位
高等学校教育実習は、()週間(10日)2単位

3) 教育職員養成審議会答申(1987)を読み、「実践的指導力」の5点セットを書け。

- ① _____
② _____

- ③ _____
- ④ _____
- ⑤ _____

4) 「学び続ける教員像」について解説せよ。

5) 「チーム学校」という考え方について解説せよ。

6) 次の()に当てはまる語句を下から選んで記入せよ。

・()も()も()も()もまた ともどもに捧げあいてぞ
()は咲くなり。

【 葉 根 花 枝 幹 】

・教師は、自身が尊敬の的となる()を下り、王座に向かう者を指導する()となり、
手本を示す()ではなく、手本に導く()となる。

【 公僕 王座 主人 伴侶 】

7) 言葉遣い 言葉と言刃

刃物による傷は治りやすく、言刃による傷は治りにくい。

母校における「中等教育実習」の意義と目標。中等教育実習の意義を4つあげよ。

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ _____

8) 「中等教育実習」において修得すべき目標を5つあげよ。

- ① _____ を磨き、研鑽の必要性を自覚する。
- ② _____ を身に付ける。
- ③ _____ を身に付ける。
- ④ _____ であることを自覚し、教育の仕事に喜びがもてるようになる。
- ⑤ _____ を身をもって知る。

9) 「教育実習事前・事後指導」(1単位)の意義を4点あげよ。

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ _____

10) 授業の構造について、()に当てはまる語句を記入せよ。

- ・授業の1単位時間は()分 チャイムで始まりチャイムで終わる授業
- ・授業の3要素 () () ()

- ・授業の主役は、()。そのパートナーとなって生徒の学習を指導するのが()
- ・授業の3要素を3つの輪で表現しよう。3つの輪が重なり合うように描く。
- ・「師弟同行・師弟共育」 分かる授業・楽しい授業・ 力がつく授業

11) 学習指導案の構造、(1)から(3)に当てはまる語句を記入せよ。

	(1)	(2)	(3)
導入			
展開			
まとめ			

- ・教材 主たる教材=教科書

※教科書以外はみな副教材(地図、資料集、年表、新聞記事、プリント教材、映像など)

12) 主体的・対話的で深い学び、アクティブ・ラーニング

学習内容	学習活動	教材	観点別評価
教師が教える内容	生徒が学ぶ活動	生徒と教師が共有	教師が生徒を評価
何を学ぶか	どのように学ぶか	学ぶための材料	何ができるようになるか

上の観点別評価とは何か。下の空欄に学習の評価の観点を4つあげよ。

「関心・意欲・()」「知識・()」「技能」「思考・判断・()」

13) 単元(unit)とは、学習の一まとまりのこと。通常数時間分の授業のまとまりで、その中に「本時」の授業が位置づく。本時の学習指導案を作るときは、単元全体の視野に立って作成する。

- ・中学校学習指導要領(平成29年3月告示)(平成33年4月1日施行)

各教科(社会)	1年105時間	2年105時間	3年140時間
特別の教科 道徳	1年35時間	2年35時間	3年35時間
総合的な学習の時間	1年50時間	2年70時間	3年70時間
特別活動	1年35時間	2年35時間	3年35時間

- ・中学校の教育課程の編成 必修教科、選択教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間によって編成するものとする。

- ・高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)(平成34年4月1日施行)

各学科に共通する各教科(地理歴史) 地理総合2単位(必修)・地理探究3単位
 歴史総合2単位(必修)・日本史探究3単位・世界史探究3単位
 特別活動
 ホームルーム

各教科(公民) 公共2単位(必修)・倫理2単位・政治・経済2単位

12

14) 学校教育における「掃除の時間」の意義について考察せよ。

15) 教育実習日誌の意義について述べよ。

①毎日書く意義、一日を迂闊に過ごさない

学校生活のさまざまな場面で学んだこと気づいたことをメモしておき、空き時間を活用してその日のうちに文章化する。→毎日、指導教員に提出して退校する。

実習日誌を読む人 指導教員 校長 淑徳大学教員(土井・吉森・鈴木・田中)

何を書くのか 教育実習日誌は、教育実習に関する日誌であるから、授業や休み時間における生徒の学びの姿をメモする、教師の指導法の優れた点をメモする、教室環境について気づいたことをメモする、教材について気づいたことをメモするなど、5W1H(When・Where・Who・What・Why・How)を入れて、自分らしい教育実習日誌を一日ごとに書きためていく。

②毎日書く意義、実践と理論の往還作業

学校で毎日行われている教育活動は、教育実践である。実習生の一日一日も教育実践の連続である。実習生の教育実践の質を高めるために、自らを振り返ることを省察(reflection)という。実習生が、もう一人の自分の眼で自分の実践をふり返ることによって生まれた思いや考えは、教育理論とよばれる。したがって、実践のやりっ放しで省察のない所には理論は生まれない。実習生が自らの実践を省察することによって生まれた教育理論を文字化する作業が教育実習日誌を書くという営みなのである。実践と理論の両方を記述する媒体が教育実習日誌なのである。

「実践」においては、When・Where・Who・What・Howをメモしておくことによって、記述がしやすくなる。

「理論」においては、Why(問い)をもって実践をふり返り、考察したことを記述する。

経済学者ドラッカー「実践なき理論は空虚である。理論なき実践は無謀である。」

実践と理論の往還によって、教育実践の質が向上していく。

16) 人間性を司る大脳の前頭前野

日本人が理想とした子ども像 日本一の桃太郎!「気は優しく、力持ち」

力持ち	能力 ability	知識 knowledge
気は優しく	資質 quality	知恵 wisdom

「人間性」を司る大脳の部位は、前頭葉。

人間性の3要素			
意志力	意	体育	やる気がまん
情操	情	徳育	優しさ・思いやり
創造力	知	知育	知識と知恵

(土井・吉森)

参考文献

- (1) 土井進・鈴木織恵・田中洋平(2016)「教育実習生としての基本姿勢・心構え」『踏み出そう!教職への第一歩 中等教育実習事前事後指導—中学校社会科・高等学校地理歴史科—』pp.12-18、淑徳大学人文学部
- 土井進(2017)「教育実習生としての基本姿勢・心構え」『中等教育実習「事前・事後指導」—教育実習で成長するために—』pp.27-44、ジダイ社
- (2) 文部科学省(2018)「教育職員免許法等の改正と新しい教職課程への期待」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/12/21/1411908_02.pdf (2020年1月9日参照)
- (3) 教育職員養成審議会(1997)「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について(教育職員養成審議会・第1次答申) 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_shokuin_index/toushin/1315369.htm (2020年1月9日参照)
- (4) 中央教育審議会答申(2012)「資料5-3 教員の資質能力向上特別部会 審議まとめ(案)(平成24年6月25日)の概要
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1325919.htm (2020年1月9日参照)
- (5) 大杉稔・山本幸夫・田村壽「『小学校教育実習』における事前・事後指導の在り方—学生の意識調査から見た指導効果と課題—」『大阪樟蔭女子大学研究紀要』第7巻、2017年。
- (6) 三浦朋子「教育実習事前・後指導のあり方に関する一考察—実習前後における学生の認識変化分析を通じて—」『亜細亜大学課程教育研究紀要』第3巻、2015年。
- (7) 川喜田二郎(1996)「川喜田二郎著作集(第5巻) KJ法—渾沌をして語らしめる」中央公論社
- (8) 文部科学省初等中等教育局 教職員課『教職課程認定申請の手引き』「履修カルテについて」「履修カルテ②〈自己評価シート〉を参照して筆者が作成。
- (9) 土井進・吉森丹衣子(2019)「中等教育実習生(社会科・地理歴史科)の授業力向上を目指す「教職実践演習」 淑徳大学人文学部『研究論集』第4号、p.136-137
- (10) 北海道教育大学(2019)『教育実習前 CBT (Computer Based Testing) 問題集』
<http://www2.hokkyodai.ac.jp/CBT/html/> (2019.1.8)
- (11) 田中洋平・土井進(2018)「『師道塾』における実践的指導力の基礎の錬磨—中学校社会科・高等学校地理歴史科の模擬授業を通して—」淑徳大学人文学部『研究論集』第3号、pp.75-84

謝辞

懇切丁寧な査読意見を賜り、誠にありがとうございました。この重要なお指摘をしっかりと受け止め、今すぐに修正しなければ時を失うと考え、著者2名は協働して修正原稿をまとめました。温かいご指導に深く感謝申し上げます。